

平成26年11月23日（日）

八ヶ岳南麓里山再生・農業支援友の会

会員の皆様へ

## 《11月度農場便り》

「研修生その後と、母校訪問」

ここ3日ほど大泉も比較的暖かな過ごし易い陽気です。会員の皆様へ今週送る大根、人参、かぶ類の野菜を収穫すると田んぼも畑も冬支度に入ります。

ところで11月1日から受け入れた研修生國武君も毎朝8時出勤で頑張っています。メモ帳を片時も離さずこんな事までメモするののかというほどの熱心さです。これにはうっかりしたことは言えないなどこちらが戸惑う程です。彼らは当初夫婦で研修を受けたいとのことでした。当農場では研修は無報酬が条件、県営住宅が安い家賃とはいえ蓄えの不十分な状況では生活が立ちゆきません。結局、奥さんの道さんは将来的に農産物を活かした加工品づくりに挑戦したいという希望を活かせる和菓子店の金精軒さんを紹介し働くことになりました。これで一安心です。一方、國武君の一生懸命の姿勢から約束の2年の研修期間で百姓の基本は十分身に着けられるでしょう。その後の彼らが耕作する田畑の手配を今から心配せねばなりません。しかし、そんな心配も力強く生きる若者夫婦を目の前にしていると何とかせねばという思いに変わるのでした。ともあれ受け入れの良いスタートが切れました。そんな折、母校の大学の校友会、稲門会の後輩からこの秋に飲食業に従事している卒業生を中心とした料飲稲門会の設立が計画されているので食材生産者の立場で参加してはという情報を頂きました。若い研修生を受け入れた矢先の良い情報でした。夢を抱き就農しても苦勞して栽培した農産物を活用して頂く先が無いと暮らしが立ちません。無農薬、無肥料の自然栽培農産物を所望する先との出会いの可能性を探るため11月22日の設立総会に参加しました。折角の機会です会場のリーガロイヤルホテルに行く前に校内を散策し、大隈講堂前のショップでゆっくりとコーヒーを頂き乍らこの40年間の来し方に浸ることが出来ました。会場に向かう道すがらこれからお会い出来るだろう校友の方々含め、この学び舎で縁の出来た多くの先輩、後輩の校友の方々に感謝せずにはいられませんでした。果たして設立会場では大変驚くことがありました。設立総会後の祝賀会に来賓で祝辞を頂いた料飲三田会副会長、黒田 誠氏は何と旧知の友人、友の会の会員なのでした。

・収納棚作成中の國武君（11/23）

・久々の大隈講堂（11/22）



メール [yamaki.yoshio@peach.plala.or.jp](mailto:yamaki.yoshio@peach.plala.or.jp)

携帯080-3080-3017